

令和8年2月16日

課 名 環境県民局高等教育担当

担当者 担当課長 英賀谷

内 線 2751

令和7年度の学校基本調査結果（大学等進学状況）について

1 要旨

文部科学省「令和7年度学校基本調査」に基づき、本県の大学等進学状況について報告する。

2 現状・背景

近年、県内外からの県内大学等への進学が減少傾向にあり、県内大学等の定員充足率の低下や転出超過の拡大が続いている。

3 概要

（1）調査対象

大学等に在籍している新入生

（2）調査期間（調査期日）

令和7年5月1日現在

（3）調査結果

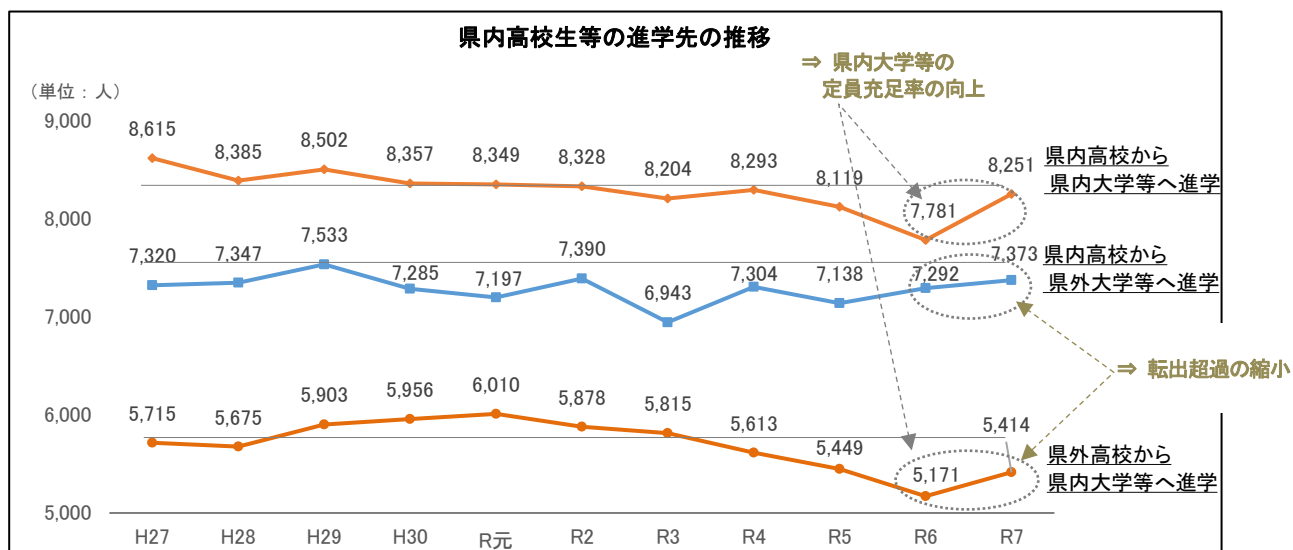
ア 大学等進学者の状況

○ 昨年度と比較して、県内高校等卒業者数の増に加え、大学等進学率の上昇等に伴い、大学等への進学者が増加した。

- 大学等進学率 $\boxed{R6}$ 64.7% → $\boxed{R7}$ 66.4%（全国平均 $\boxed{R6}$ 60.7% → $\boxed{R7}$ 61.4%）
- 大学等進学者 $\boxed{R6}$ 15,073人 → $\boxed{R7}$ 15,624人（+551人）

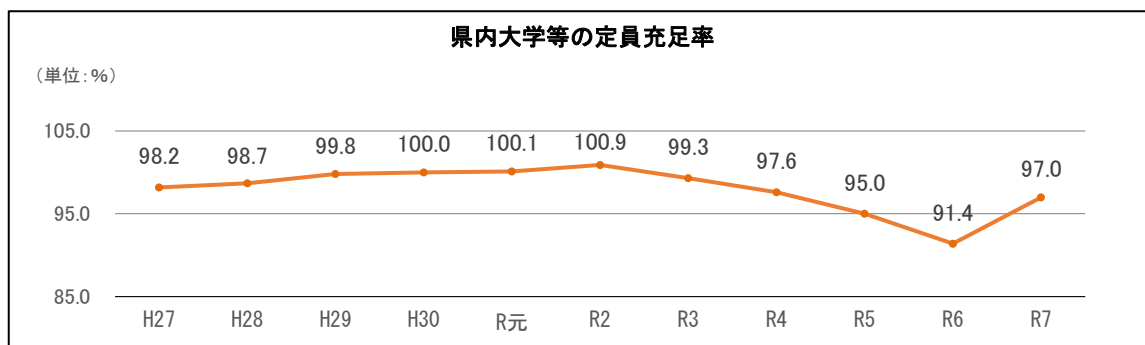
○ 「県内高校から県内大学等への進学者」は3年ぶりに増加に転じるとともに（+470人）、「県外高校から県内大学等への進学者」も6年ぶりに増（+243人）となった。

一方、「県内高校から県外大学等への進学者」については、引き続き増加傾向にある。



イ 県内大学等の定員充足率の状況

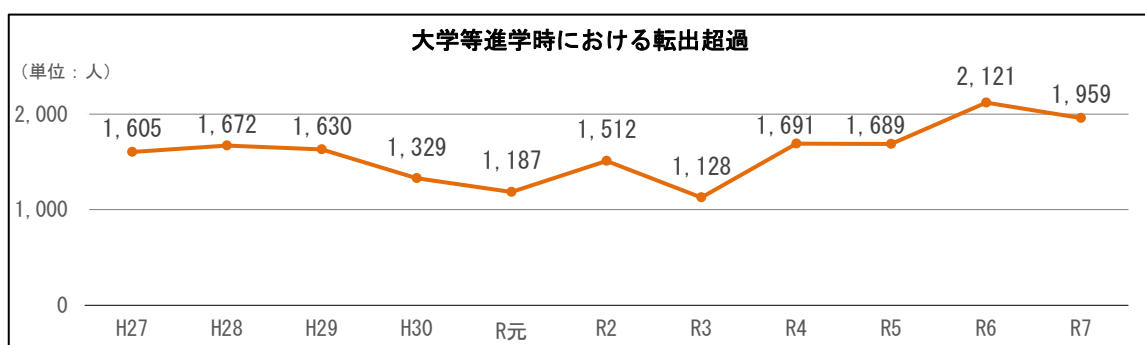
○ 県内大学等の定員充足率は、令和2年度以降、減少傾向にあったが、令和7年度は97.0%まで改善した。



※県内大学等の定員充足率は、各大学のHP等をもとに県が作成。

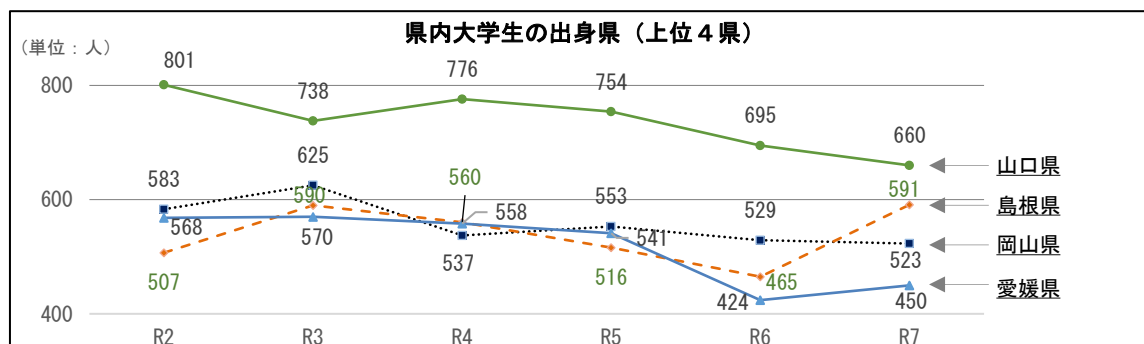
ウ 大学等進学時の転出超過数の状況

- 令和7年度の転入者は5,414人(+243人)、転出者は7,373人(+81人)で、1,959人の転出超過となった。(令和6年度から162人縮小)



エ 本県への転入元・本県からの転出先

- 転入者の約4割が近隣県(山口県、岡山県、島根県、愛媛県)からであり、4県からの転入者数は減少傾向にある。



- 転出先としては近畿の割合が最も多く(約3割)、近畿への転出者数は増加傾向で推移している。

